第 2 回 SPARC Japan セミナー2013

「人社系オープンアクセスの現在」

開会／概要説明

島田　貴史
（慶應義塾大学メディアセンター本部）

島田　貴史
1994年に慶應義塾大学の職員として就任。メディアセンター（図書館）に配属される。
主に利用者サービスを担当し、2012年6月より現職。8大学による大学図書館電子学術
書共同利用実験で事務局と渉外（出版社など）を担当している。

第 2 回 SPARC Japan セミナー2013「人社系オープンアクセスの現在」を開始させていただきます。本日は、最初に 3 本の講演を予定しています。

1 本目は、一橋大学経済研究所の青木先生による「経済学と経済学者にとってのオープンアクセス」。2 本目は、一橋大学大学院の石居人也先生による「歴史学の研究手法・環境とオープンアクセス」。3 本目は、Open Library of Humanities の Martin Eve さんによる「海外の動向：人社系 OA 誌の最前線」。4 本目は、京都大学学術出版会の鈴木哲也様による「『学術情報』と『体系的な知』のはざまで」です。その後、パネルディスカッションを行う予定です。

まず、簡単にウォーミングアップをしましょう。本日は約 100 名の方にお越しいただいていますが、どのグループに属しているか、試しにアンケートを取ってみようと思います。まず、一番多いのは大学図書館の方々です。大学図書館の方、挙手していただけますか。大体、全体の 3 分の 1 ですね。次に多いのは出版社・印刷会社の皆さまです。挙手をお願いします。こちらは大体 4 分の 1 です。その次に多いのは研究者の方々です。その他、国立機関の方々、NII の職員の方などもいらっしゃいます。

本日は、学術情報がデジタル化されていく中で、現在、とりわけ人文社会系の分野でオープンアクセス性がどのような現状にあるのか、そして、今ご紹介したような研究者の方々、図書館関係の方々、また出版社の方々が、それぞれの立場でどのような期待を持っているのか、さらに今後についての展望という 3 点について、4 本のご講演とその後のパネルディスカッションで深めていきたいと思います。